

砂川地域に雨水ますや浸透槽の設置を 雨水ますの清掃等で雨水の浸透化を実施

若木 早苗 (日本共産党)



問

強い雨が降ると道路の冠水や家屋の浸水被害が発生する砂川地域の方々は、長年雨水問題で苦労しています。8月の台風9号の豪雨で深刻な被害のあった砂川町七、八丁目の改善策は進んでいるのでしょうか。雨水対策として雨水ますや浸透槽の設置などを積極的に進めていたいただきたいと考えますが、市の見解を伺います。また、空堀川幹線についても整備が進んでいません。見通しはどのようになっているのでしょうか。

答

昨夏の台風9号以降、9月に道路雨水ます53カ所の浸透化を実施したほか、平成29年1月までに既設浸透施設の清掃を実施することで、一定の浸透能力向上が図られると考えています。浸透施設の設置は、撤去のリスクの低い市有地を優先して検討します。また、空堀川流域の雨水は、空堀川へ排水するため、広域的な雨水排水を担う雨水幹線整備が必要と考えており、都に事業化を強く要請していきます。

柴崎町の子どもたちの居場所づくりを サマー学童の実施について、検討中

松本 まき (民進党・市民フォーラム)



問

柴崎町には児童館がなく、学童保育所も一つしかありません。学童の待機児童は、開校中は放課後クラブがありますが共働き世帯などは、長期休暇中低学年の子どもの留守番に不安を感じています。一小の学童保育所の待機児童数及び市内の長期休暇中に自宅で過ごす子どもの数を伺います。また、児童館、学童保育所の新設やサマー学童の実施、柴崎会館等でボランティアが子どもたちを見る等考えられないでしょうか。

答

第一小学校区の学童待機児童数は、平成28年4月1日現在28人で、長期休暇中に自宅で過ごす子どもの数は未把握ですが、全市では約200人の待機児がいます。現在児童館、学童保育所の新設予定はありませんが、サマー学童保育所については、実施の可否を検討しています。保護者のボランティアサークルによる預かりについては注目していますが、市の施設提供は、その施設の長時間の確保など多くの課題があり、難しいと考えます。

長期不登校への対応にNPOとの連携を NPOとも情報交換し、問題解決を検討

谷山 きょう子 (立川・生活者ネットワーク)



問

平成27年度の小中学校の不登校数は203名で、増加しています。学校現場の改善により、居心地よく通学できる状態を作ることが必要です。不登校児童の追跡調査では、20歳前後の約18%がニート、ひきこもり状態で、もしそのまま就労できないと生活保護につながるリスクもあり、社会的に大きな損失です。また、不登校は自殺一歩手前の命のSOSサインの場合もあります。第三者の視点を取り入れ、一般社団法人、NPO等と連携を。

答

不登校児童については、適応指導教室で学習指導やカウンセリング等を行っています。小中学校全校で、ネットワーク型の学校経営システムを活用し、関係諸機関と連携しています。特に小学生向けでは、子ども家庭支援センター等との連携を重視しています。学校外でも民生委員、児童委員等とも連携し、関係者でサポート会議を開いています。そういった中で必要に応じて、NPO等とも情報交換を図ることなど検討していきます。

都立多摩教育センター工事に伴う安全確保を 都に街灯や歩道確保の要請を行う

中町 聡 (日本共産党)



問

都は閉鎖された都立多摩教育センターの敷地に、立川地区チャレンジスクールを設置し、平成35年開校予定です。周囲の道路は第三小学校等の通学路ですが、工事があるため安全に通学できる歩道の確保について考えを伺います。今後、工事が始まって今と同じ約2メートル幅の歩道確保、現場を囲う柵を圧迫感のないものにする、都の敷地内にある5本の街灯の撤去に伴う暗い歩道への配慮など、都と調整し、安全確保を求めます。

答

現在、チャレンジスクールの建設工事等の詳細は、都から示されていません。敷地の一部を歩道のように使用しているため、都へは、工事の際できる限り現状の歩道形態部分は囲わずに確保するよう要請します。地元自治会等から不審者対策など安全面での要望があり、3メートルの仮囲いを設置すると聞いておりますが、威圧感の少ない形状になるよう、また街灯についても、協力を都に申し入れていきたいと考えます。



柴崎学童保育所

用語解説 「アール・ブリュット」とは

「生の芸術」という意味のフランス語で、画家のジャン・デュビュッフェによって考案された言葉。伝統などに左右されず自身の内側から湧き上がる衝動のままに表現した芸術と言われる。

市内では2015年と2016年に「アール・ブリュット立川」(障がいのある人たちのアート展)が開催された。



砂川町の冠水の様子

地域の協力でボール遊びができる公園を 近隣住民や自治会の理解が不可欠

福島 正美 (公明党)



問

ボール遊びを禁止している公園が増え、子どもの遊び場が減っています。このことを課題として市民に周知し、地域の理解と協力としてボール遊びができる公園をつくりませんか。そうすることで、ボール遊びをしてもいいと地域の中から声が出るかもしれません。そういった声を市に申し出ていただき、子育て世代や住民の声を遊び場づくりに反映させる仕組みづくりを行うべきだと考えます。

答

公園でのボール遊びをできるようにして欲しいとの要望はいただいております。公園は、幼児から高齢の方まで幅広い年齢の方が利用しており、実現には、近隣住民や自治会などの理解や協力が不可欠です。ボール遊びについては、地域の中でも賛成、反対という状況があることから、地元の公園管理団体の清掃美化協力員などと機会があるごとに情報共有するとともに、他の自治体の事例を調査し、検討したいと考えます。

立川版アートパラリンピックの開催を 表現の場の提供について可能性を検討したい

高口 靖彦 (公明党)



問

市では現在、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい立川をつくる条例(仮称)」を策定中です。今年もまたアール・ブリュット立川展が開催されましたが、そのノウハウを活かした立川版アートパラリンピックの開催について伺います。市単独での実施が難しいければ、多摩の各市等に協力を呼びかけてもいいのではないかと。国や都は、文化プログラム、特に障害者アートに注目しており賛同を得られるのではないかと考えます。

答

長野パラリンピック開催時に、千人以上のボランティアによる企画運営でアートパラリンピック長野が開催されましたが、このような大祭典の開催は、気運の醸成があつて初めて可能になると考えます。東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムでは、障害のある方も含め様々な人々による交流と創作が始まっており、都や周辺自治体と情報共有を図り、市民団体等の動向も見ながら、表現の場の提供の可能性を検討したい。

サマー学童の民間委託や学校利用を 民間委託による運営を検討

瀬 順弘 (公明党)



問

第一小学校の学区内には、学童保育所が1カ所しかなく、今年度28人の待機児童がいます。柴崎町は今後も児童数が増えていくと思いますが、待機児童対策についてお示しください。学校があるときは、地域の方々のおかげで、放課後子ども教室が開催されておりますが、夏休みなど長期休業中は開催されていません。せめて夏休みの間だけでも、一小のランチルームを借りるなどして、サマー学童を開設できないでしょうか。

答

学童保育所の新設については、第一小学校は児童数の増加で空き教室はなく、地域にも適当な場所がない状況です。サマー学童開設については、場所と予算の確保が必要となりますが、運営については、すでに学童保育所で民間委託等の実績があるため、サマー学童でも民間委託は可能と考えています。サマー学童開設の具体的な検討に入った段階で、場所の問題について、関係部署や第一小学校とも協議していききたいと考えています。

子どもの医療費一無料化を 都に対して要望していく

永元 須摩子 (日本共産党)



問

都内で小中学生の子どもの医療費の窓口負担や所得制限がない自治体はどれがあるのでしょうか。子どもの医療費が無料になると、自治体への国庫負担減額調整措置が行われ、補助金が減らされますが、国のこうした自治体への罰則はやめるよう要望等は出しているのでしょうか。子どもの貧困問題が大きく取り沙汰されている中、窓口負担をゼロにするべきです。また、市独自の対応で所得制限をなくすべきだと考えますが、見解を伺います。

答

義務教育就学児医療費助成制度について、窓口負担を全額助成している自治体は23区全てと2市、所得制限をなくしている自治体は23区全てと7市です。全国市長会は、子どもの医療費助成制度に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止について、国に要請しています。また、この制度は都の制度であり、窓口負担や所得制限の廃止は都の制度改正によるべきだと考えており、今後も都に対して要望していききたい。